

こんぺき

静岡市稲門会
会報 10号
2022. 12.15

田中総長迎え3年ぶりの静岡県稲門祭

8月6日、浜松市のホテルコンコルド浜松において、田中愛治総長を迎え、3年ぶりとなる「静岡県稲門祭」が開催されました。県内各稲門会から200名余の校友が集まり、大いに懇親を深めることができました。

開学百五十年を見据えて

講演の冒頭、田中愛治総長はコロナ禍による困窮学生へ校友から多額の支援金が寄せられたことに對し感謝の意を表しました。また大学の開学百五十年を迎えるに当たり、逞しい知性としなやかな感性を持った学生を育て、世界や人類に貢献できる大学を目指すとして力強く決意を述べられました。

遠州稲門会総力結集

コロナ第七波が拡大する中、主幹の遠州稲門会では、人数を制限し会食は黙食とするなど感染予防対策に



工夫を凝らしてくれました。でもそれだけで終わらないのが遠州稲門会。現役学生を巻き込んでの進学相談会や、舞台での様々なパフォーマンス。総長も驚くような充実した会となりました。

静岡県支部長交代

陰山正敏氏（静岡市稲門会長）

から青木代司一氏（三島市）へ。

静岡県支部総会も3年ぶりの対面総会。任期満了による役員改選では、新たに三島市稲門会長の青木与司一氏（79年理工）が選任され、これに伴い、石渡裕子幹事長はじめ静岡市の事務局メンバーも東部校友会メンバーと交替しました。残念ながら3年間ほとんど事業は中止となつてしまいましたがお疲れ様でした。

静岡県学生稲門会を支援（ホームカミングデー）



塚本夏海幹事長（3年）他学生メンバーと県支部役員の皆さん

10月23日に行われた大学ホームカミングデーでは、静岡県学生稲門会がキャンパス内に静岡県ブースを出しました。県支部では役員達の寄金でこれを支援。静岡市稲門会からも安倍川餅百五十パック、遠州稲門会からも「うなぎパイ」が提供され、売上はすべて学生稲門会の活動資金となりました。十一月の稲門祭では学生側が安倍川餅三百パックを購入し販売してくれたとのこと。



陰山県支部長、退任の挨拶

グローバルな視点を持つ人材の育成を 日本銀行静岡支店長 小泉達哉氏（1989年政経卒）



89年日本銀行入行
22年静岡支店長
東京都出身

早稲田の思い出 バブルど真ん中の学生時代

私が政治経済学部政治学科に入学したのは1985年の春。その年の9月にプラザ合意があった。以後、G5によるドル高是正のための協調介入と、日銀の公定歩合引下げの下で、日本経済は円高不況を克服し、一気にバブル景気に突入していった。最近の就職面接では、「学生時代に力を入れたことは？」という定番の質問を「ガクチカ」と呼ぶそう。私のガクチカは、前半はテニスのサークル活動、後半はゼミ活動であった。入学後しばらくは、長い受験・浪人生活から解放されたこともあって、授業もそこそこにテニスにいそしんだ。テニスの合間には、キャンパス

や高田馬場駅周辺の「B級グルメ」も堪能した。「三朝庵」のカツ丼、「カリーの藤」のドライカレー、「えぞ菊」のラーメン……。今も垂涎ものだが、通った店の多くは姿を消している。

3年生になると片岡寛光教授の行政学のゼミに入った。4年生のゼミ論では、私は、外国人労働者の問題を取り上げた。当時予測されていた将来の人口減少と、国際社会の中の日本の発展を図るには、外国人労働者に門戸を開く必要があり、そのための課題と施策をとりまとめた。

大学時代は、今振り返るとあつという間の4年間であったが、社会に出てからも職場や通勤先で多くの同窓の方々と出会うことができた。転職族としての苦労は人並みにあったが、各地に稲門の知己を得たことは、私の将来に亘っての宝である。

今後の経済展望 デジタルとグローバルと

2022年は、誠に多事多難の1年であった。政治面では、ロシアに

よるウクライナ侵攻や台湾を巡る米中関係の緊張など、これまで何とか維持されてきた国際秩序は大いに混乱した。環境面では、地球の至る所で異常気象が頻発した。静岡県の台風15号による甚大な被害も記憶に新しい。コロナ禍も、世界第2位の経済大国・中国における「ゼロ・コロナ政策」は、いまだ自国のみならず世界経済の重しとなっている。



日銀静岡支店

こうした地政学的リスクの顕現化や異常気象の頻発、コロナ禍の継続は、世界のサプライチェーンの停滞を招いている。また、サプライチェーンの停滞は、欧米などでの経済活動の再開と相俟って、エネルギー、原材料、肥料などの価格高騰を招き、

その波は一般消費者にまで及んでいる。その結果、インフレが高進する欧米では、長らく続いた金融緩和が転換期を迎え、相次ぐ政策金利の引上げにより世界の金融資本市場は大きく変動した。

こうした中で、本邦企業にとって、これまで、当然の前提としてきたこと、例えば、従来の国際分業体制に基づくサプライチェーンや、地震に主眼を置くBCP対策、あるいは、時々の人手不足を非正規雇用や外国人労働者で随時補う方策などが、今後も持続可能か、不足や見直しの余地はないかを再検討する時期に来ている。そうした課題に、世界の動向を俯瞰し分析しながら取り組んでいけるかが、先行きの展望を大きく左右するように思われる。近年、デジタル人材の育成が官民挙げての課題となっている。それと共に重要なのは、グローバルな視点を持つ人材の育成・獲得であろう。早稲田の田中愛治現総長は、世界に向けて「たくましい知性」と「しなやかな感性」を備えた人材の育成を目標に掲げられている。私も卒業生のひとりとして陰ながら母校の応援を続けて参りたい。

信長の町から来ました

静岡市役所戦略広報監 柴山紀子さん（1988年教育卒）

■母校に感謝

縁あって静岡市役所にお仕事をいただき、静岡で三度目のお正月を迎えます。静岡に来てから、市長や役所の職員の方、議員の方々、メディアの方々など、稲門だからと声をかけていただく機会が多々あり、静岡に所縁のなかった私にとって、稲門の皆様の存在は大変心強く、あの大学に行って良かったと、母校に感謝しながら、この原稿を書いています。

■静岡を途中下車したくなる町に

学生時代を含めて、人生の半分以上を東京で過ごしてきた私は、故郷・岐阜との行き来に何度となく東京―名古屋間を新幹線で往復してきました。出張で一、二度降り立ったことはありましたが、静岡駅は、学生時代には「ひかり」、やがて「のぞみ」に乗って、一瞬で通り過ぎてしまう駅でした。

静岡市で暮らし始めて、海の影響しかなかった静岡が山の自然にも恵

まれていること、貴重な神社仏閣や

歴史を感じられる場所があちこちにあること、駅近にある市の美術館や唯一無二の芹沢美術館などでアートに親しめること等々、街に、人に、食べ物に：多くの静岡市の魅力を発見しました。ただただ新幹線で通り過ぎてしまってきた長い年月が悔やまれ、「もっと早く教えてくれよお」と心の声が叫びました。

悔いが残る私の過去は取り返せま

せんが、かつての私のように、静岡の魅力に気づいていない方たちにも



JR 静岡駅北口「しずチカ」で情報発信

つと情報を届けたい、と今の私は切に思っています。

数時間の寄り道や目的地向かう途中の一泊のために静岡駅で途中下車をしよう、そう思ってもらえる町にすることが、現在の仕事の中で掲げている私の目標のひとつとなっていて、静岡駅北口地下広場（通称「しずチカ」）をより魅力的なスポットにリニューアルするプロジェクトなどに取り組んでいます。（写真は、その一環として「しずチカ」でラジオの公開放送を行ったときのものです）

■鳴かぬなら：

ホトトギスが「鳴くまで待てる」家康公の町、静岡の皆さんには、「殺してしまえ」の信長（どころかマムシの斎藤道三？）の町から来た私は異星人かもしれません。

そんなよそ者も受け入れてくださっている皆さんの寛容さに甘えつつ、異質なものが出会うことで良い化学変化が生まれ、静岡の未来に少しでもお役に立てることを願っています。

※戦略広報監Ⅱ静岡市の情報発信力強化のため2016年新設。三代目の柴山さんは民間から初の採用

静岡市稲門会総会開催

5月13日、グランディエールで、3年ぶりの令和4年度総会が開催されました。校友45名が参加。

オータム・フレッシユ・リーグ

秋の野球事業としてすっかり定着した本リーグ。11月20日人気カード早慶戦に駆けつけた校友たちです。



結果は7-3で慶応に軍配。でも応援の皆さん、余裕の笑顔。

石渡裕子さん受賞



当会副会長
の石渡さん
（78年教育卒）が、静岡市芸術文化奨励賞を受賞されました。

授与者の田辺市長とツーショット

新社屋に進取の精神

静岡第一テレビ常務取締役

杉山 洋氏(1986年文卒)

静岡第一テレビ

ビは今年4月、新社屋をグラウンドオープンしました。私は20



15年の計画策定時から建設推進室長を務めました。この社屋は稲門会で造ったと言っても過言ではありません。建設を決断した当時の会長・社長、推進室に所属した8人中4人もが早稲田卒です。当然に進取の精神が溢れています。

コンセプトは「森の中のメディアステーション」。県内で唯一幹線道路に面していない放送局なので、地域と調和した景観を目指して煉瓦と木調を基本外観としました。オフィスフロアは管理・技術部門以外の150人が一堂に働く大部屋を採用しました。一番の特徴は「森IIパーク」。シンボルツリーの高さ12mのケヤキをはじめ桜などパーク内に3千本の草木を植栽し、四季を通じて何らかの花が咲いています。

本業である放送に関しては、報道スタジオに最先端のオンエアグラフィックシステムを採用、生放送でカメラと連動してCGが動く画面は県内局で当社だけなんです。午後6時の各局ローカルニュースのスタジオ映像を比較して見てください、一目瞭然です。鉄塔もLED照明で毎晩ライトアップしています。



森の中のメディアステーション
静岡第一テレビ新社屋

省資源にも配慮、パークの灌漑、外構清掃、トイレなどの雑用水は敷地内に自然湧出する地下水を利用している、余った湧水は農業用水として下流の農家に提供しています。残念ながら放送局ゆえ、セキュリティが非常に厳しいのですが、大浜

街道側からは外構がご覧いただけです。夜間もライトアップしていて、星野リゾートみたいですよ。「行ったことないけど(笑)」

趣味は晩酌、仕事に喜び

SOMP Oひまわり生命

西村遥奈さん(2018年法卒)



初めまして。2018年度卒の西村遥奈

と申します。「お客様に健康と安心をお届けしたい、万が一だけでなく、大切な人と過ごす普段の何気ない幸せな日常をお守りしたい」という思いからSOMP Oひまわり生命に入社し現在5年目。前任地の久留米では趣味の晩酌を大いに満喫し4年間で23kgの増量に成功(?)しました。様々な方と出会い、お話し、多様な価値観に触れることに喜びを感じます。保険のことで気になることがございましたらいつでもご連絡ください。これからどうぞ、

県下18SSを飛び回る

J A静岡経済連くらし支援部

松田直之氏(2016年国教卒)

現在、私は静岡県経済農業協同組合連合会で、県下のJ A組合員への安定的なエネルギー供給業務に従事しています。西は袋井から東は下田まで担当の県下18SSを飛び回る営業です。大変ですが非常に充実しています。J A—SSは組合員以外でも利用できる事を、より周知していくことが今の課題です。また、弊社では、静岡県全域での燃料油・重油・プロパンガスの受発注・販売を行っております。ご興味ございましたら【05412849529】までご連絡を頂ければ幸いです。



よろしくお願いいたします!!